

まちづくりコミュニティの構造分析 その1

大子町屋台研究会をケーススタディとして

正会員 ○中原 宏 *1
同 藪谷 祐介 *2
同 斉藤 雅也 *3まちづくりコミュニティ 構成員 役割
構造分析 コレスポネンダ分析

1. はじめに

近年、少子高齢化、若者の担い手不足が深刻となり、町内会などの地縁型コミュニティの衰退が大きな社会的問題となっている。それに伴い、専門家が介入し、まちづくりコミュニティ^{注1),1)}を形成させることで地域課題解決に取り組むコミュニティデザインが注目されている。コミュニティは、各構成員がそれぞれ役割を担って活動していることから、どのような構成員がどのような役割を担ってコミュニティを成立させているかの構造を把握することは、まちづくりコミュニティの運営や外部から支援をする上で有用であると考えられる。

本研究では、コミュニティの構造分析手法を開発するために、ケーススタディとして、まちづくりコミュニティ「大子町屋台研究会」の構成員の特徴とその役割との関係から、コミュニティの構造分析を試みた。本稿では、その結果に基づいて、構造分析によって得られる知見を述べる。

2. 調査方法

「大子町屋台研究会」の事務局に協力を依頼し、その構成員31名に対し、構成員の特徴を把握するための下記a)b)と、構成員の役割を把握するための下記c)の調査用紙(記名式)を配布し、郵送により回答を得た。

a) アンケート調査1

構成員の特徴を把握するために、表1に示す項目のアンケート調査を実施した。モチベーションについては、マズローの欲求段階説を参考にし、まちづくりコミュニティのモチベーションになり得る「生理的欲求」「安全欲求」を除いた「所属と愛の欲求」「承認の欲求」「自己実現欲求」の3つに予め分類した選択肢12肢を用意した。また、コミュニティや構成員の貢献度は100点満点で回答を得た。

表1 アンケート調査1の項目

調査内容	回答者属性	性別、年齢、職業、所属グループ数、居住歴
	コミュニティ	参加時期、参加モチベーション
	評価	コミュニティのまちへの貢献度 自身のコミュニティへの貢献度

b) 新版東大式エゴグラムII (TEG 2)²⁾

性格特性を分析するために広く使われているエゴグラムを採用した。性格特性はCP(リーダー性が高い)、NP(支持性、共感性が高い)、A(合理性が高い)、FC(創造性が高い)、AC(協調性が高い)に細分化される。対象者の回答より得られる性格特性の構成要素のうち、素点が最大値である要素を、対象者の特徴的な性格特性とした。

c) アンケート調査2

構成員の役割を把握するために、エゴグラムの5つの性

格特性に対応する5項目、本研究のまちづくり活動への参加観察により抽出した3項目、構成員へのヒアリングにより抽出した2項目、計10項目の役割と、キーパーソンを把握するための1項目を設定(表2)し、各項目をどの構成員が担っているかを投票するアンケート調査を実施した。構成員による投票数のばらつきがないように、1項目につき5名まで投票できるものとした。また、どの役割を担う構成員が重要であるかを把握するためにキーパーソンの項目を設けた。各構成員の投票結果が実情と異なる可能性はあるが、すべての構成員に対して調査を実施することで、信頼性の高いデータが得られると考えられる。

表2 アンケート調査2の項目

コミュニティの構成員の役割	エゴグラム	リーダーシップを発揮している 相談に乗ってくれたり、助けてくれる 話を整理したり、問題点を指摘してくれる アイデアを出してくれる いつも協力的である
	参加観察	活動を発信、情報を収集してくれる 様々な調整や裏方仕事をしてくれる 知識や技術を提供してくれる
	ヒアリング	場の雰囲気良くしてくれる 活動のための場やものを提供してくれる
キーパーソン	特に活躍が目立つメンバー	

3. 大子町屋台研究会の概要

「大子町屋台研究会」は茨城県大子町で活動するまちづくりコミュニティで、2010年に発足した。オリジナルの軽トラ屋台を活用し、りんごなどの町の特産品を使った新商品の開発・販売を通して、特産品のPRを行うことを目的に活動している。

4. 構成員の特徴

調査回答数は21名(回収率67.7%)であった。アンケート調査1とエゴグラムの結果を表3にまとめた。20代から70代まで様々な年齢の構成員で成り立つ多世代型のコミュニティと言える。

表3 構成員の特徴

No.	性別	年齢	職業	所属グループ数	居住地域数	参加年度	モチベーション	グループ貢献度	自身の貢献度	エゴグラム
016	男	40	地方公務員	7	2	2010	自己実現欲求	60	80	AC
017	男	60		6	3	2011	自己実現欲求	10	100	CP
020	男	40	農業	11	3	2011	自己実現欲求	60	40	NP
021	男	50	団体役員、自営業	3	7	2010	自己実現欲求	100	100	FC
040	女	40	大学教員	5	5	2010	自己実現欲求	80		FC
043	男	60	自営業	7	3	2010	自己実現欲求	60	10	CP
045	男	40	サービス業	5	1	2010		100	0	A
046	女	20	公務員	1	1	2010	自己実現欲求	70	50	CP
平均		37.6		4.8	3.4	2010.5		65.7	58.0	
標準偏差		15.7		2.7	2.2	0.9		24.5	29.9	

5. 構成員の役割による類型の視覚化

アンケート調査2の得票数の集計結果から、コレスポネンダ分析を用いて、構成員(16~46)と役割をプロッ

トした布置図を作成した(図1)。相対的に類似度・関係性の強い項目は近く、弱い項目は遠くにプロットされる。布置された役割から、横軸が<労働力の提供-資産の提供>軸、縦軸が<行動性-思考性>軸であるとした。また、クラスター分析を用いて構成員を6つに類型化し、各類型の構成員の得票数を平均化したものをレーダーチャートで表した(図2)。それにより各類型を、①情報発信・雰囲気良くするリーダー(3名)、②協力的な知識・技術の提供者(1名)、③協力的な裏方調整役(5名)、④知識・技術・場・モノの提供者(3名)、⑤場・モノの提供者(5名)、⑥目立った役割がない(14名)、とした。キーパーソンは①、②、③に集中しており、これらはコミュニティ内において特に重要な役割を担っていると考えられる。①の周辺には、リーダー、情報発信、相談役、アイデアの提供者、話を整理と多くの役割が密集しており、一部の人が複数の役割を担っていることが把握できる。それに対し、調整役や場・モノの提供者は中心から離れて位置し、一つの役割に特化して担う人がいることが把握できる。

6. 構成員の特徴と役割の関係

年代別にみると、20・30代(若者)が労働力を提供し、行動性の高い役割を、40・50代(中堅者)が資産を提供し、行動性の高い役割を、60代以上(高齢者)が思考性の高い役割を担っていることが分かる。類型別にみると、①は3名全員がコミュニティ設立時から参加しており、そのうち2名が中堅者である。②は材木店経営の高齢者である。③は5名全員が若者で、そのうち4名が行政職員である。④、⑤は職業が農家、職人、自営業、年代は中堅者が多い。これらより、「大子町屋台研究会」の各構成員が担う役割は、年齢や職業と関連性が高いことが分かる。

7. まとめ

本稿では、まちづくりコミュニティの構成員の特徴とその役割との関係から、そのコミュニティの構造分析を試みることで、以下の成果が挙げられた。

- ・まちづくりコミュニティの構成員が担う役割を10項目の役割から分析できる可能性を示した。
- ・構成員の役割を布置図とレーダーチャートで視覚化する手法を示した。また、布置図では<資産の提供-労働力の提供>軸と<行動性-思考性>軸によって評価できる可能性を示した。

次稿では、他のまちづくりコミュニティとの比較分析や分析結果の調査対象者へのフィードバックによって、調査方法の実証性、有用性を検証する。

参考文献

- 1) 山崎亮: 中山間離島地域の住民参加型まちづくりにおける活動主体の形成手法に関する研究: まちづくりコミュニティの形成プロセスを例に, 東京大学学位論文, 2012, p23
- 2) 東京大学医学部心療内科 TEG 研究会: 新版 TEG II, 金子書房, 2006

注

- 注1) 山崎はまちづくりコミュニティを、①特定のテーマを掲げて活動する、②同じ地域に居住している構成員からなる、③非営利の活動を主とする、④まちづくりに貢献する活動を行っている²⁾と定義しており、本稿でもこれを採用する。

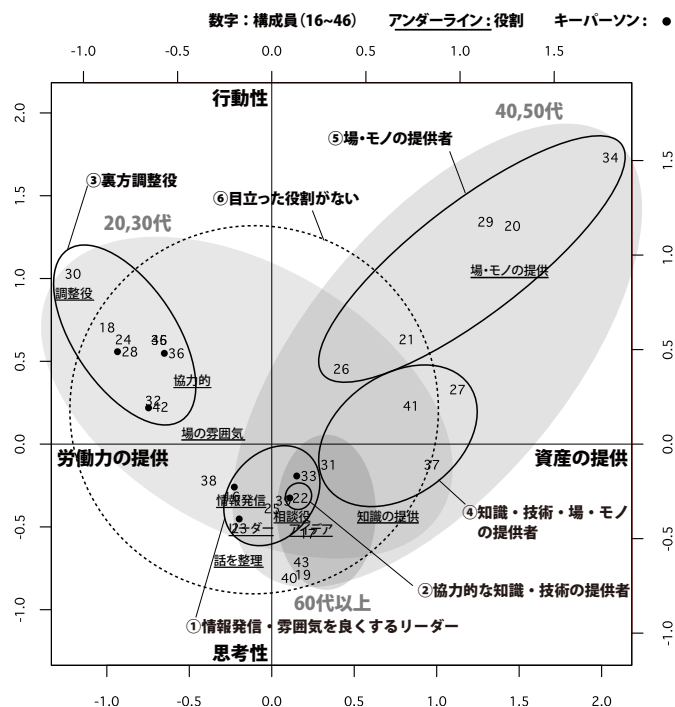


図1 構成員・役割同時布置図

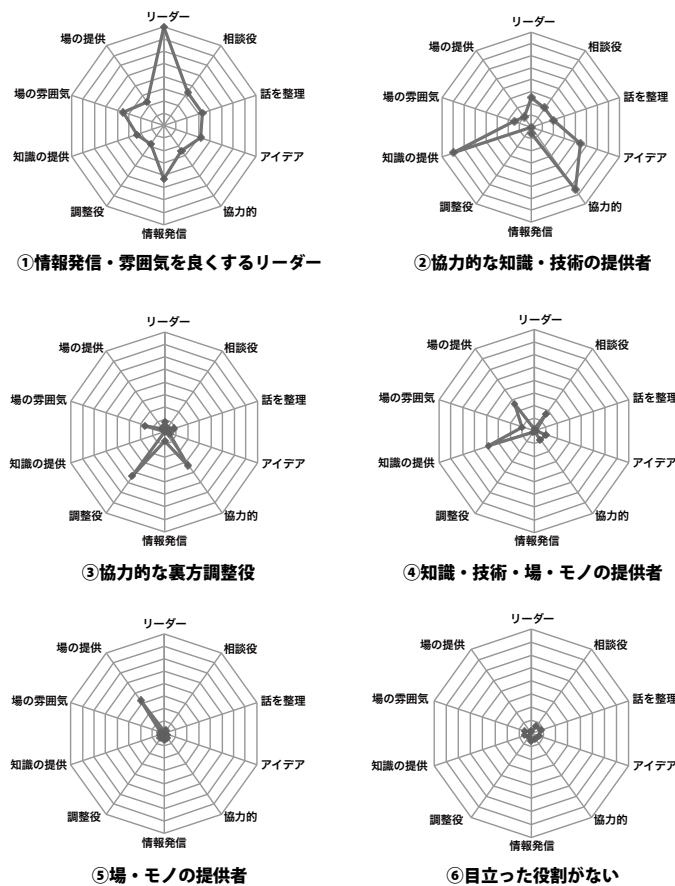


図2 類型別役割レーダーチャート

*1 札幌市立大学デザイン学部 教授・工博
 *2 同大学教育支援プロジェクトセンター 特任助教・修士(デザイン学)
 *3 同大学デザイン学部 准教授・博士(工学)

*1 Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Dr.Eng.
 *2 Project Assist. Prof., Educational Project Center, Sapporo City Univ., M.Design
 *3 Assoc. Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Dr.Eng.